

## Ⅱ 労働者福祉事業

## Ⅱ 労働者福祉事業

### 1 労働災害に関する相談と休業補償給付の立替貸付

労働者が業務上の災害にあつて療養のため休業を要する場合、多くは労働者災害補償保険法に基づく休業補償給付金によって生活を維持することになる。

休業補償給付金の給付までには制度上日数が掛かるため、生活に余裕や貯えのない日雇労働者にとって、深刻な生活問題となる。

センターでは労働災害について事後の手続きなど広く相談を受けているが、特にこうしたケースに対して休業補償給付金の立替貸付制度を設けている。

この事業は、資金面で大阪府の援助、手続き・指導面で大阪労働局と労働基準監督署の協力を得て実施している。

また、貸付金の回収は、各労働基準監督署より「受任者払い」の承認を受けて行い、あるいは一部「国庫送金」の形で行っている。

今年度、新規相談は196件、前年度比5.9%増、新規立替者数は73名、前年度比17.0%減となっている。その他の取扱状況は別表のとおりである。（表Ⅱ-1）

地域の雇用状況がやや好転したこともあり労災相談件数は若干増加した。しかし全国的には長引く不況の影響が依然として尾を引いており、経営上の問題からも、労災保険適用を避けようとする事業所側の事情もあり、示談等で立替に至らない相談も多く、新規立替者件数は減少した。

一方、事業所が労災として認めない、生活の援助もない等のため、労働基準監督署へ労働者が直接自主申告せざるを得ない等の難ケースもあり、立替条件を満たすことができない相談も多くあった。（表Ⅱ-6）

### 2 労働安全の取り組み

地区労働者の90%以上が就労する建設業は、労働災害の発生数が多く、死亡災害を含む重大災害も多い。労災係が休業補償の立替やケースワークを行った被災労働者の中には、障害を残して労働不能に陥ったり、就労を大幅に制限されるに至った労働者も少なくない。一日中疼痛に悩まされる被災者もいる。負傷内容によっては被災者に深刻な影響をもたらすのが労働災害である。生活の不安定な地区労働者にとっては、特にその影響が大きいと言わねばならない。

一方、事業所にとっても、労働災害によって被る経済的損失は小さいものではない。特に景気低迷期など工事の受注が減少している時には、労働災害の発生が請負契約に直接影響を与えるなど、厳しい経営事情を訴える声で満たされている。

当センターは、約1,700社の求人事業所と20,000人を超える日雇労働者の接点に位置し、その双方とのコミュニケーションが可能である。この立場上の特性を活か

して、地区日雇労働者の労働災害を少しでも減らして行きたいと考え、労働安全の取り組みを行ってきた。

## 2000(平成12)年度の主な労働安全推進の取組

- (1) 「センターだより」11月号に事業所向け安全啓発の労災特集を掲載した。
- (2) 労災事例の聞き取り調査(72件)を行い、年間報告書を作成した。
- (3) 労働者向け労災啓発ビラの配布を7、8月に行った。

## 「立替にいたらなかったケースの状況」(2000年度内処理分94件の分析)

(表Ⅱ-6)

### (1) 相談延べ日数

相談延べ日数	件数
1～10日	74
11～30日	8
31～50日	3
51日以上	9
計	94

### (3) 立替に至らなかった理由

理由	件数
解決扱い	40
本人来所せず(中止扱い)	54
計	94

### (2) 相談回数

相談回数	件数
1～5回	74
6～10回	12
11～30回	7
30回以上	1
計	94

### (4) 中止扱いとなった相談内容の内訳

内容	件数
労働基準監督署への本人申告	15
10号請求の "	1
再発・抜釘請求の "	5
私病による入院	1
事業所からの連絡	4
通勤災害・交通事故手続	2
負傷部位の因果関係不明	6
不明	20
計	54

表Ⅱ-1 2000(平成12)年度労災休業補償立替貸付関係実施状況表

労災休業補償給付立替状況表

	新規 相談	貸付労働者に係わる相談及事務手続き					貸付労働者 以外の相談					合計		新規 貸付	貸付 打切	貸付 実人員	貸付 延日数	補償費 給付請求		
		代理請求に係わる連絡調整事務					一括貸付 の 相談	労災関係 の 相談	労災関係 の相談等	事務手続 の相談等	労災関係 以外の 窓口事務							7号	8号	10号
		7号	8号	10号	その他	計														
4月	19	5	112	22	57	196	130	256	116	93	417	1,227	4月	6	6	53	1,303	0	57	4
5月	11	8	119	35	39	201	118	195	100	70	342	1,037	5月	6	8	49	1,300	1	63	7
6月	10	4	99	30	36	169	113	217	100	67	344	1,020	6月	4	14	47	1,246	1	54	11
7月	14	8	84	23	20	135	94	162	85	53	339	882	7月	1	3	37	896	1	47	2
8月	19	9	91	18	31	149	78	151	101	71	333	902	8月	6	5	38	938	2	38	4
9月	19	2	88	22	36	148	80	169	128	83	316	943	9月	8	8	39	993	0	43	7
10月	25	4	89	29	39	161	86	201	131	95	333	1,032	10月	11	10	46	984	1	48	8
11月	10	10	90	17	29	146	79	214	114	88	336	987	11月	4	1	41	897	4	43	0
12月	24	7	91	18	45	161	80	208	115	98	307	993	12月	14	3	48	1,374	2	42	3
1月	12	5	116	20	47	188	88	216	86	67	345	1,002	1月	3	9	47	1,071	1	54	5
2月	18	5	99	23	30	157	85	212	104	70	344	990	2月	3	4	45	1,117	1	48	3
3月	15	3	91	29	24	147	80	249	108	77	403	1,079	3月	7	12	46	1,121	1	49	7
合計	196	70	1,169	286	433	1,958	1,111	2,450	1,288	932	4,159	12,094	合計	73	83	120	13,240	15	586	61
前年度合計	185	88	1,139	211	647	2,085	1,362	2,174	1,178	919	4,529	12,432	前年度合計	88	72	125	14,725	29	569	42

\* 貸付実人員は日々貸付と一括貸付の実際の貸付人員である。

表Ⅱ-2 2000(平成12)年度労災休業補償給付立替貸付状況

月	貸付状況						G 事業主へ 返戻	B 収入金額	C		差額預り金	D 差額預り金増減	E=(B-G)-C-D 財団回収金額	F=A-E 債権増減	債権残高	
	日々貸付		一括貸付		A 計				差額支払		前年度繰越額				前年度繰越額	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額			件数	金額	7,639,503				8,416,261	
4月	449	6,423,000	35	840,000	484	7,263,000	0	12,409,659	52	4,945,314	7,577,440	-62,063	7,526,408	-263,408	8,152,853	
5月	430	6,265,000	38	878,230	468	7,143,230	0	13,212,290	53	5,122,992	7,920,612	343,172	7,746,126	-602,896	7,549,957	
6月	381	6,085,000	41	1,034,510	422	7,119,510	0	15,114,206	54	6,183,290	8,995,234	1,074,622	7,856,294	-736,784	6,813,173	
7月	276	4,415,000	27	555,000	303	4,970,000	0	10,867,433	52	6,106,128	7,895,699	-1,099,535	5,860,840	-890,840	5,922,333	
8月	288	4,625,000	22	480,000	310	5,105,000	0	9,945,454	38	4,766,417	7,682,804	-212,895	5,391,932	-286,932	5,635,401	
9月	311	4,904,000	21	535,000	332	5,439,000	0	8,980,424	34	3,855,825	7,887,465	204,661	4,919,938	519,062	6,154,463	
10月	362	4,786,000	24	699,287	386	5,485,287	0	9,235,305	41	5,295,045	7,132,161	-755,304	4,695,564	789,723	6,944,186	
11月	307	4,409,000	22	595,537	329	5,004,537	0	10,689,388	42	4,716,361	7,576,139	443,978	5,529,049	-524,512	6,419,674	
12月	379	6,695,000	24	450,235	403	7,145,235	0	11,759,963	48	6,739,306	7,282,282	-293,857	5,314,514	1,830,721	8,250,395	
1月	399	5,205,000	20	360,000	419	5,565,000	12,000	10,295,068	40	4,650,485	7,070,273	-212,009	5,844,592	-279,592	7,970,803	
2月	402	5,430,000	20	345,000	422	5,775,000	0	13,102,459	50	6,310,129	7,462,759	392,486	6,399,844	-624,844	7,345,959	
3月	394	5,466,000	36	650,000	430	6,116,000	0	10,569,448	45	5,210,738	7,068,917	-393,842	5,752,552	363,448	7,709,407	
年度合計	4,378	64,708,000	330	7,422,799	4,708	72,130,799	12,000	136,181,097	549	63,902,030	7,068,917	-570,586	72,837,653	-706,854	7,709,407	
	労働者福利厚生準備金繰入額										872,575	債務免除額				0
	次年度繰越										6,196,342	次年度繰越				7,709,407
前年度計	4,275	72,190,000	389	9,543,140	4,664	81,733,140	0	148,574,492	553	68,250,242	7,958,532	-178,511	80,502,761	1,230,379	8,452,261	

労災新規立替貸付者状況 73名

		人	%
年 令	平均	53.6	
現在 扶養者有り		7	9.6
住 所	西成	70	95.9
	その他	3	4.1
部屋代 (平均)円	日払	1,339	
	月払	46,214	
雇用形態	日雇	41	56.2
	常用	32	43.8
安全教育	有	25	34.2
産業分類	建設	63	86.3
	運輸	0	0.0
	製造	2	2.7
	その他	8	11.0
負傷現場	大阪市内	20	27.4
	大阪府下	28	38.4
	近畿府県	20	27.4
	その他	5	6.8

(表Ⅱ-3)

		人	%
負傷時刻	初～10	22	30.1
	10～12	22	30.1
	12～15	17	23.3
	15～17	8	11.0
	17～終	4	5.5
負傷部位	手部	24	29.3
	足部	32	39.1
	頭首部	7	8.5
	腰部	7	8.5
	胸部	10	12.2
	※その他	2	2.4
傷病名	挫傷	21	23.3
	切創	2	2.2
	打撲	7	7.8
	捻挫	3	3.3
	骨折	47	52.3
	※その他	10	11.1

※については重複有り

休業補償日額(円)	最高	12,342
	最低	3,511
	平均	7,859

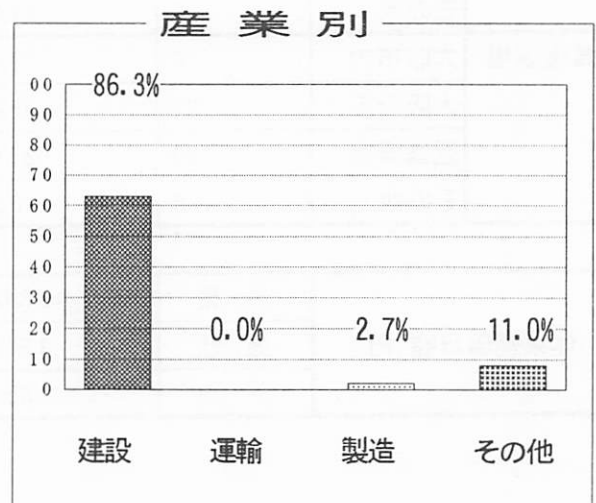
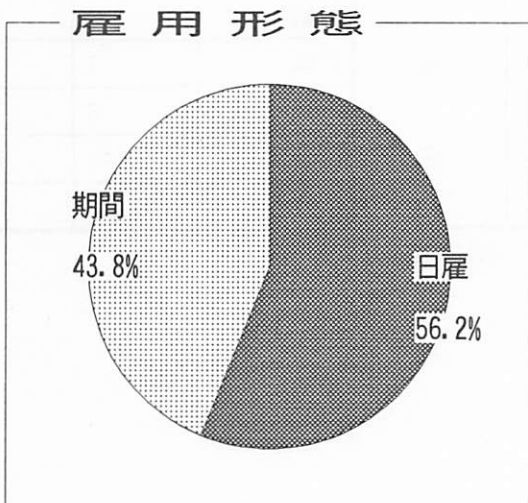
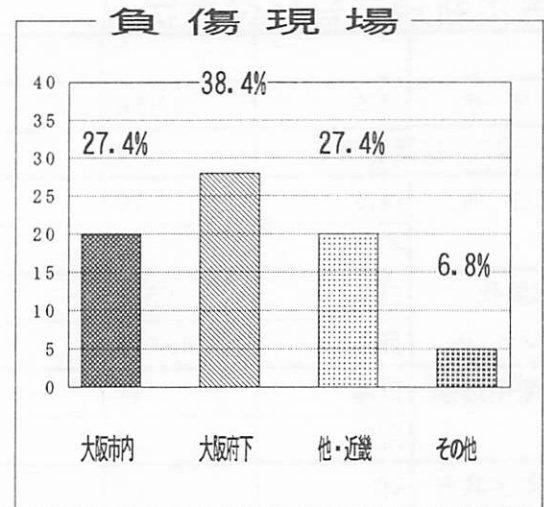
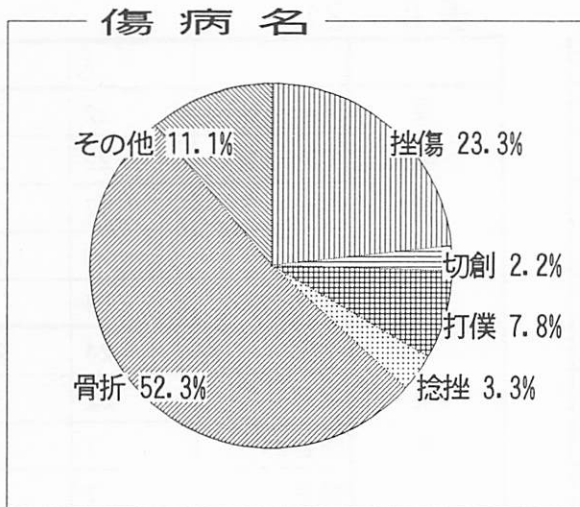
年齢分布 (表Ⅱ-4)

年 齢	人	%
～30	0	0.0
31～35	1	1.4
36～40	3	4.1
41～45	5	6.8
46～50	17	23.3
51～55	17	23.3
56～60	15	20.6
61～65	12	16.4
66～	3	4.1
合 計	73	100.0

最高年齢	74才
最低年齢	35才
平均	53.6才

【新規立替者状況】

(図Ⅱ-1)



【立替打切者状況】 (83名)

表Ⅱ-5

負傷部位 ※					
手 部	足 部	頭 首 部	腰 部	胸 部	そ の 他
28	34	4	5	13	4
傷病名 ※					
挫 傷	切 傷	打 撲	捻 挫	骨 折	そ の 他
12	1	11	3	57	12

受給日数	
最 高	3,135
最 低	7
平 均	208
延日数	17,304

障害補償請求者数
53名 (打切者の63.9%)

※については重複有り

### 3 技能資格取得促進

地区の労働者の中には、現場経験が豊富で、様々な技能を有している人が多くいるが、資格を取得していないため、就労に困難をきたしている者も多い。

この事業は、技能資格を取得することにより就労の安定を図るため、1993（H5）年度よりガス溶接、アーク溶接を行い、1995（H7）年度より車両系建設機械「整地他用」及び「解体用」（=いずれも経験者）の4科目を行ってきた。

2000（H12）年度より車両系建設機械「整地他用」（初心者）、フォークリフト運転（初心者）、玉掛（初心者）、大型自動車運転の4科目を追加し、合計8科目の技能講習を行った。

今年度は153人が修了証・免許証を取得した。 （表Ⅱ－7）

内訳はガス溶接 22 人、アーク溶接 23 人、車両系技能講習では「整地他用（初心者）」20 人、同「整地他用（経験者）」10 人、同「解体用（経験者）」13 人、「フォークリフト運転（初心者）」27 人、「玉掛（初心者）」30 人、「大型自動車運転」8 人であった。

事業開始以降8年間で修了証の取得者は延べ544名に達している。

さらに、上記事業を促進するために、技能講習の案内・啓発を行い、技能講習に関する各種相談を行った。その内訳は、センター主催講習について2,269件、他機関講習について587件、合計2,856件の相談・案内を行った。

また、各種技能講習の修了履歴を1枚にまとめて証明するカード作成の相談・案内を153件、修了証再交付の相談を642件、同請求手続きを103件行った。

（表Ⅱ－8）





平成12年度(2000年度) 労働安全・技能講習関係業務状況表

(表Ⅱ-8)

	技能講習相談・案内			技能資格修了証				その他の窓口業務			合計	安全啓発 関係
	センター主催	その他 一般	計	「カード」作成 相談・案内	再交付		計	飲酒者	その他	計		
					相談	請求手続						
4月	125	43	168	29	37	4	70	6	97	103	341	啓発ポスター作成 2枚
5月	269	77	346	21	56	8	85	26	154	180	611	
6月	319	68	387	14	41	7	62	35	165	200	649	
7月	184	62	246	9	41	10	60	29	150	179	485	
8月	183	39	222	8	66	9	83	62	147	209	514	
9月	206	42	248	14	40	5	59	43	135	178	485	
10月	288	46	334	17	78	12	107	30	132	162	603	
11月	205	36	241	6	40	5	51	24	125	149	441	
12月	116	28	144	11	58	8	77	44	139	183	404	
1月	175	51	226	10	59	10	79	40	146	186	491	
2月	122	43	165	6	47	12	65	32	122	154	384	
3月	77	52	129	8	79	13	100	50	130	180	409	
合計	2,269	587	2,856	153	642	103	898	421	1,642	2,063	5,817	
前年度合計			1,119		549	83						

## 4 医療相談

医療を求める労働者に対し、簡易処置としては、傷テープの配布及び軽微な処置を 11,693 件、専門的な診療の必要なものは大阪社会医療センターへの依頼を 7,780 件、他の医療機関や相談所への案内として他機関案内 1,254 件、救急車による措置 24 件、合計 20,751 件の相談や措置を行った。(表Ⅱ-9)

## 5 労働者援護

### (1) 短期宿泊援助

仕事に就けなかったり、働いた賃金が受け取れないなどの事情で困っている労働者に対し、宿泊と食事を提供するため大阪自彊館に依頼した。

本年度は相談件数 2,791 件、措置依頼 1,404 件、宿泊件数 1,389 件であった。

別途、大阪府簡易宿所環境衛生同業組合の依頼により、平成 11 年 8 月 2 日から 1 日 10 名、平成 12 年 8 月より 1 日 8 名を限度に簡易宿泊所へ無料宿泊紹介を行った。本年度簡宿紹介は 577 件であった。

### (2) 疾病援助

不幸にして入院を余儀なくされるなど困窮している労働者に対し、衣類、洗面セット等物品の援助を 2,593 件行った。なお、「洗面セット」は、平成 11 年 12 月に花王石鹸販売(株)より石鹸、シャンプー、カミソリの寄贈があったものである。

### (3) 生活援助

就労・賃金受領・労災手続き等のための交通費に困っている労働者や、その日の食事代や宿泊費が不足している労働者に対し、実費程度の少額の金銭援助を行った。

本年度は相談数 496 件、措置 140 件であった。(表Ⅱ-9)

### (4) 労働関係相談・生活身上相談・その他の相談

「労働関係相談」は、就労するために必要な事業所の住所・電話番号調べ、電話の貸付等が 1,597 件、雇用保険の相談が 585 件、建退共関係が 573 件で合計 2,755 件行った。

内、「建退共」(建設業退職金共済制度)は建設関係に就労する労働者の退職金制度で、本年度 8 月より手帳作成についての手続援助業務を始めた。

本年度は建退共の案内を 335 件、同相談を 238 件、手帳作成手続援助を 146 件行った。

「生活身上相談」は合計 5,587 件行った。

内訳は住民登録のための相談 1,180 件、同請求手続 527 件行った他、健康保険・郵便物の取扱い・住宅公団の入居相談（単身者用）を含む所得証明・尋ね人・落とし物の相談等 4,407 件であった。

住民登録の相談は、これが雇用保険手帳の取得条件であるために行われる場合がほとんどであるが、ケースによっては、前住所地へ転出証明を請求できないこともある。職権消除（移転先不明で登録が抹消され、本籍地へ戻されるもの）されておれば、戸籍抄本と附票の取り寄せが必要となり、失踪宣告されていると裁判所等での復籍手続きが求められる等の難ケースもあった。

健康保険の相談では、毎月の資格確認の後で「遠隔地の就労先へ保険証を送って欲しい」という要望が広がっており、本年度は 244 件送付した。

その他の相談は「他施設・機関に対する不満を伴うもの」から「針と糸を貸してくれ」「ティッシュをくれ」「爪切りを貸してくれ」「単身者住宅の空き家情報を知りたい」など細々した依頼のほか、飲酒者対応（716 件）を含めて 6,244 件であった。

（表Ⅱ-10）

## 6 労働者福利厚生

恒例の「たそがれコンサート」を 9 月 7 日（木）に三角公園で開催した。11 年目になる府立淀川工業高等学校吹奏楽部を招いての演奏会は、地区労働者が高校生と交流する場ともなり、すっかり定着している。

その日約 1,500 人の労働者が集まり、懐かしのメロディーなどの演奏に憩いのひと時をすごした。

11 月 6 日（月）には過去最高の 49 名の参加を得て「将棋愛好者のつどい」を開いた。和気あいあいのうちに勝ち抜き戦が繰り広げられた。森六段（日本将棋連盟）の指導対局も恒例になり、多面打ちで熱戦に持ち込む参加者の姿もあった。

また、シャワールームの無料開放に協力し、タオル、石鹸、カミソリを給付した。夏は 8 月 23 ～29 日の 6 日間（利用者 1,589 人）、冬は 12 月 27、28 日と 1 月 5、6 日の 4 日間（利用者 595 人）であった。

## 7 広報・啓発活動

求人情報、労働関係啓発、健康知識の普及を図るため、「技能講習」「建退共」「労災予防」の特集を組み、労働者の生の声等を載せた広報紙「センターだより」を、毎月2,300部を作成し、労働者や登録事業所及び関係機関等に配付した。

また、労働者から寄せられた短歌、俳句、エッセイなどを編集して、9月にセンターだより300号記念「文芸作品集」、3月に「新世紀記念文集」を各600部発行し、配布した。

他に、仕事や生活に役立つ「労働者便利帳」を6,000部発行し、配布した。

## 8 日雇労働者福利厚生措置事業

あいりん地区日雇労働者の福祉の増進を図るために本年度は、夏期に16,900円を12,683人に支給し、冬期に18,400円を12,749人に支給した。

平成12年度(2000年度)医療、緊急措置相談状況表

(表Ⅱ-9)

	医療相談						緊急措置相談								
	簡易措置		診療 依頼	他機関 案内	救急車 依頼	計	短期宿泊				簡宿 紹介	疾病援助 物品給付	生活援助給付		
	傷テープ	処置					相談	依頼	宿泊	返戻			相談	措置	返戻
4月	1,185	15	779	107	2	2,088	434	143	140	105	80	239	52	25	8
5月	1,030	14	729	53	1	1,827	489	138	137	73	85	238	20	7	1
6月	831	12	649	120	1	1,613	327	153	152	95	58	229	30	8	9
7月	847	9	615	88	4	1,563	214	128	127	83	38	210	29	8	1
8月	671	8	630	109	1	1,419	141	107	107	99	25	194	31	20	9
9月	992	3	592	99	3	1,689	145	103	103	84	43	257	16	10	8
10月	1,286	10	696	102	1	2,095	155	102	100	88	31	186	20	5	2
11月	1,010	18	598	93	1	1,720	136	100	97	84	32	164	15	9	6
12月	862	16	543	98	0	1,519	140	78	78	73	30	185	12	11	6
1月	946	8	685	159	3	1,801	245	131	129	101	56	275	33	17	2
2月	851	8	559	106	5	1,529	121	87	86	91	31	169	36	12	11
3月	1,056	5	705	120	2	1,888	244	134	133	95	68	247	202	8	5
合計	11,567	126	7,780	1,254	24	20,751	2,791	1,404	1,389	1,071	577	2,593	496	140	68
前年度計	13,810	275	9,010	799	45	23,939	3,556	1,541	1,535	1,110	527	349	539	177	109

平成12年度(2000年度)労働関係、生活・身上相談措置状況表

(表Ⅱ-10)

	労働関係相談								生活・身上相談										泥酔ト ラブル	その他
	就労 関係	雇用保険		建退共			計	手続等	戸籍・住民票		健康保険		郵便物 受渡	所得 証明	尋ね人	落し物	計	手続等		
		相談	手続	案内	手帳 相談	手帳作成 援助			相談	手続	相談	資格票 送付								
4月	193	79	0				272	0	123	46	54	23	209	2	9	12	409	69	73	363
5月	128	49	1				177	1	116	56	61	23	206	1	9	5	398	79	56	308
6月	167	57	1				224	1	119	39	59	19	360	2	11	11	562	58	61	320
7月	155	56	1				211	1	94	39	55	14	331	1	6	4	491	53	66	359
8月	109	51	0	4	47	27	211	27	94	40	54	17	348	3	9	9	517	57	68	290
9月	103	31	2	62	43	26	239	28	95	46	46	14	309	1	10	14	475	60	54	275
10月	112	53	0	61	37	17	263	17	106	52	50	24	340	2	12	18	528	76	47	280
11月	105	50	4	46	24	18	225	22	79	40	43	25	281	3	5	6	417	65	39	239
12月	125	42	1	50	25	19	242	20	73	32	33	11	348	4	14	13	485	43	48	268
1月	162	49	2	61	29	15	301	17	95	42	47	13	274	2	18	12	448	55	37	1,167
2月	106	28	0	25	21	14	180	14	86	48	40	29	272	2	7	7	414	77	88	1,331
3月	132	40	1	26	12	10	210	11	100	47	55	32	262	4	12	10	443	79	79	328
合計	1,597	585	13	335	238	146	2,755	159	1,180	527	597	244	3,540	27	122	121	5,587	771	716	5,528
前年度計	2,149	890	15				3,039	15	1,486	662	858	309	2,468	41	128	120	5,101	971	887	4,182

★「所得証明」には公団単身者住宅申込時のものを含む。★「落し物」については届け物受理数。

★「建退共案内・手帳作成相談・手続援助」は8月より実施。7月まではその他の相談で処理。

雇用保険業務取扱状況【あいりん労働公共職業安定所】(表Ⅱ-11)

年度	項目 新求職者数	規 年度末有効 求職者数	保険金給付実人員 (各月合計)
1995(平成7年)	2,291	14,530	113,772
1996(平成8年)	2,282	15,130	118,659
1997(平成9年)	2,148	15,032	116,348
1998(平成10年)	2,081	14,257	110,803
1999(平成11年)	2,215	13,932	112,939
2000(平成12年)	2,192	14,062	116,708

健康保険取扱状況【玉出社会保険事務所】(表Ⅱ-12)

年度	被保険者手帳				年度末 有効手帳	受給資格者証				受給資格 確認	傷病手当 件数
	新規	更新	再交付	計		新規	更新	再交付	計		
1995 (平成7年)	1,626	5,459	1,296	8,381	9,009	1,058	5,048	1,029	7,135	41,919	755
1996 (平成8年)	1,668	5,816	1,174	8,658	9,164	1,025	5,352	943	7,320	44,221	859
1997 (平成9年)	1,438	5,631	1,052	8,121	8,768	919	5,077	775	6,771	43,147	898
1998 (平成10年)	1,258	4,880	918	7,056	7,812	736	4,531	647	5,914	39,789	863
1999 (平成11年)	1,233	4,789	856	6,878	7,563	727	4,340	628	5,695	39,106	468
2000 (平成12年)	1,203	5,137	830	7,170	7,301	825	4,734	627	6,186	43,480	350

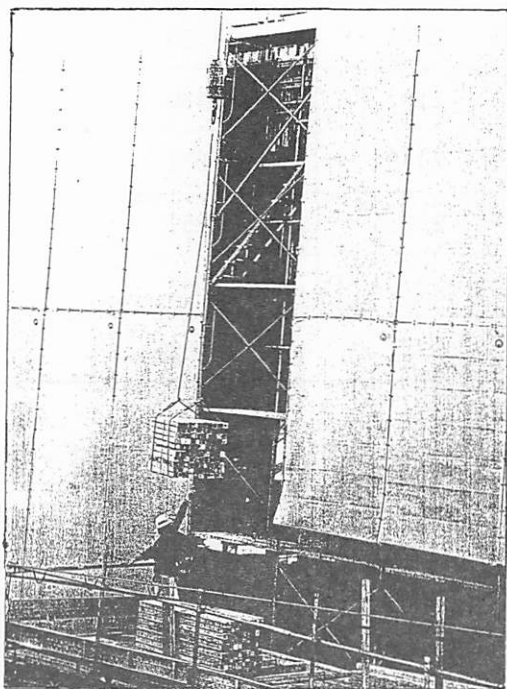
日雇労働者福利厚生措置事業状況(表Ⅱ-13)

年度	夏 期			冬 期			合計支給総額
	支給金額	支給人員	支給総額	支給金額	支給人員	支給総額	
1995 (平成7年)	15,700	12,477	195,888,900	17,400	12,943	225,208,200	421,097,100
1996 (平成8年)	16,300	13,212	215,355,600	18,000	13,553	243,954,000	459,309,600
1997 (平成9年)	16,900	13,735	232,121,500	18,400	13,744	252,889,600	485,011,100
1998 (平成10年)	16,900	13,494	228,048,600	18,400	13,235	243,524,000	471,572,600
1999 (平成11年)	16,900	12,810	216,489,000	18,400	12,648	232,723,200	449,212,200
2000 (平成12年)	16,900	12,683	214,342,700	18,400	12,749	234,581,300	448,924,300



# センターだより

# センターの技能講習 科目が増えました



萩之茶屋小学校の改築工事

これまで、センターの技能講習は経験者を対象に「ガス溶接、アーク溶接、車両系の整地と解体」の四種目で年間六〇名の労働者が受講しており、始まってからの修了者は、延べ三九一人となっています。

この四月からは、初心者を対象にした「大型自動車、フォークリフト、玉掛、車両系整地」の四種目の講習が増え、この受講者は合計で七五名を予定しています。

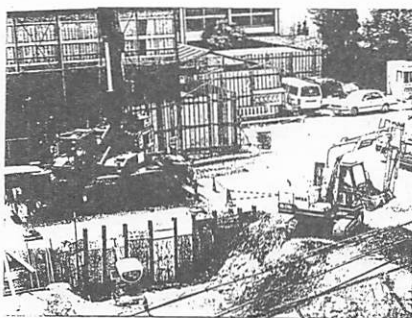
講習場所は、溶接が天王寺区の職業訓練センター（学科のみ、実技は別）、大型自動車が津

守自動車教習所で、その他は枚方市のコマツ教習所を予定しています。

現在、四月下旬の案内で、アーク溶接（講習日、五月二〇、二二、

## Kさん（51才）

資格はあっても、一般工もいく。印紙枚数をためることが先や。町屋とかでは、ひとりで便利屋のように、薦でも何でもやれる人が採用されるので、いろいろな資格をもっておいたほうがいい。



（二七日）を計画し、次にガス溶接（講習日、六月三、一〇日）と今後計画が決まり次第、案内掲示をすることになっています。

受講は、センターを利用して就労し、年齢が四〇歳から六三歳まで、大阪府内に住民票を保持している労働者としています。

## 技能講習修了を一枚の「カード」で 証明できることになりました！

資格がものをいう時代、修了証ははだ身から離せません。でも、汗まみれになる建設現場では、どうしてもいたみず。

二月より、いろいろな機関で修了したデータがコンピュータにまとめられ、一枚ですべての技能講習資格を証明するカードを作成することができるようになりました。これからは、何枚もの修了証を仕事場に持っていく必要がなくなりやすくなります。

申請は、①本人確認の書類、②証明したい全ての修了証、③手数料二一〇〇円、④発行申請書と写真二枚（三×二・四センチ）が必要です。

申し込みは「建設業労働災害防止協会大阪府支部」（大阪建設会館二階）や、その他発行代行機関があります。

この「カード」は、修了証の所有を証明するものなので、修了証の原本は大切に保管しておいて下さい。

## ●技能講習や「カード」発行 については、センター労働安全 班にご相談ください。

## Hさん（48才）

センターの技能講習では車両系解体とアーク溶接をとった。仕事でよく使うのは移動式クレーンとアークや。

今までにとった中でむずかしかったのはエクウス線とガンマ線の資格やな。サインとかコサインとかアインシュタインの相対性理論が試験に出てくるんや。この二つは仕事に使うというより、資格の勉強をすることが老化防止に役立つのであったんや。今後取りたい資格は高所作業車や。

## 求人情報

気温の急上昇で一気に満開した桜も、はや散りはじめました。長い寒い冬を開花の準備をしてきたことを思えば、いかにも、はかない散り様です。

三月の現金求人はい前月に比べて一四・四％の増、前年に比べて三〇・四％の増となり、契約求人も前年に比べて一〇九・二％の増となり、二月度に引き続き年度末の求人増の様相を示しました。

しかし、この様相も三月末には薄くなり、再び厳しい求人減少期を迎えています。

三月二日より始まった「高齢者清掃」の登録も四月二五日で終了します。

3月の求人数		対前月増減比 (%)	対前年増減比 (%)
現金	75,113	14.4	30.4
契約	57,526	1.5	109.2
(延べ)	(内、センター窓口分)		
	10,886	-5.8	48.1
高齢者清掃紹介数		4,074人	

# センターだより

第306号

2000年12月15日発行  
 (財)西成労働福祉センター  
 大阪市西成区菘之茶屋1-3-44  
 ☎06-6641-0131

チイエンソーの音が止むと「木が倒れるぞー」の音が鳴る。雑木林に響く。ここは、大阪の北端の青少年野外活動センター。山の向こうは丹波である。ここで、十月から、地帯労働者が伐採に従事している。



## 晩秋

### 「交付金事業」を訪ねて!

#### 「もっと続けたいな」

九月中旬から十月にかけて、紹介窓口で「山の仕事」や「道路の草刈り・清掃」の求人を探り出しました。見かけた方も多かったです。これは「交付金事業」と言っているのだから、府などが発注者となって地区に回って来た仕事です。

今回の「山の仕事」は慣れた建設現場と違い、結構急な斜面で鉋を使い伐採するなどの危険な作業も含まれます。比較的簡単な作業そのものは、比較的時間

現場はキャンプ場。利用者が快適に利用できるように

間伐  
 あらかじめ赤のペイントでマークしてある木を手のこぎで倒します。



「俺は山仕事には慣れている。田舎は山持ちで、よく山仕事の手伝いをさせられたから。もっと仕事が続きたい……」

「大阪でも北のはずれ、山の中だから気温は3〜4度低い。汗をかきっぱなしにして風邪、引いてしまった」でも最終日、焼き肉パーティーをやってもうってやったという気分や。

「現場まで1時間半、通うのが結構きつい。でも仕事は気に入っているのだから、契約期間は頑張るつもりや」



除草作業

単でも長時間歩き回るため体力も要求されます。また、現場が山だけに、通勤に時間がかかってくるをえません。その辺の事情を理解してもらった上で紹介でした。初めての事業なので応じていただいた方には、「今後につながるかどうか皆さん次第」とお願いしました。その結果、十一月末まで135名を紹介し、27名が約束どおり満期まで就労しました。皆さんの動きぶりを現地に見ました。

「山の仕事」は初めて。でも2〜3日で鉋や鉋の使い方は覚えたり木の倒し方も判った。建設現場と違って、自分のペースで仕事できるのがなによりや(54歳)



枝打ち倒した木の枝払いをして適当な大きさに

「経験はなかったけど、この仕事結構おもしろい。空気がきれいで静かなのが何より」



幹は同じ長さで切って整理

「森林組合の話」  
 「こちらも初めてのことで、どうなるかと思っておりましたが、不安は一旦で消えました。必ずしも慣れた仕事ではないはずですが、皆さん良くやってくれました。おかげで事業も予定どおり終了できました。」

#### 「交付金事業」

正式名称は緊急地域雇用特別基金事業といいますが、不況が長引き全国的に雇用が落ち込む中で、雇用の拡大を目的に国が資金を出した事業です。2000年3月までの期間、全国で約1千億円、府下には計百四十億円の予算が付いています。この秋の求人は府下の土木局発注の河川や道路の草刈り、森林組合発注の倒木や間伐処理の仕事でした。

センター窓口からは、高齢者を中心に約170名、延べ2500名の紹介をおこなっていました。仕事にいった方からは求人の拡大を望む声が多く寄せられています。

#### 求人情報

十一月の現金求人は全体としては前月と同水準でしたが、十一月末からそれまでの五〜六%増となっています。ただ、これも波があり、長くは続かないものと思われれます。

契約求人もセンター窓口での「交付金事業」が終了に近づき、求人が減った分、全体の数を押し下げていますが、その他の求人は少し増えています。

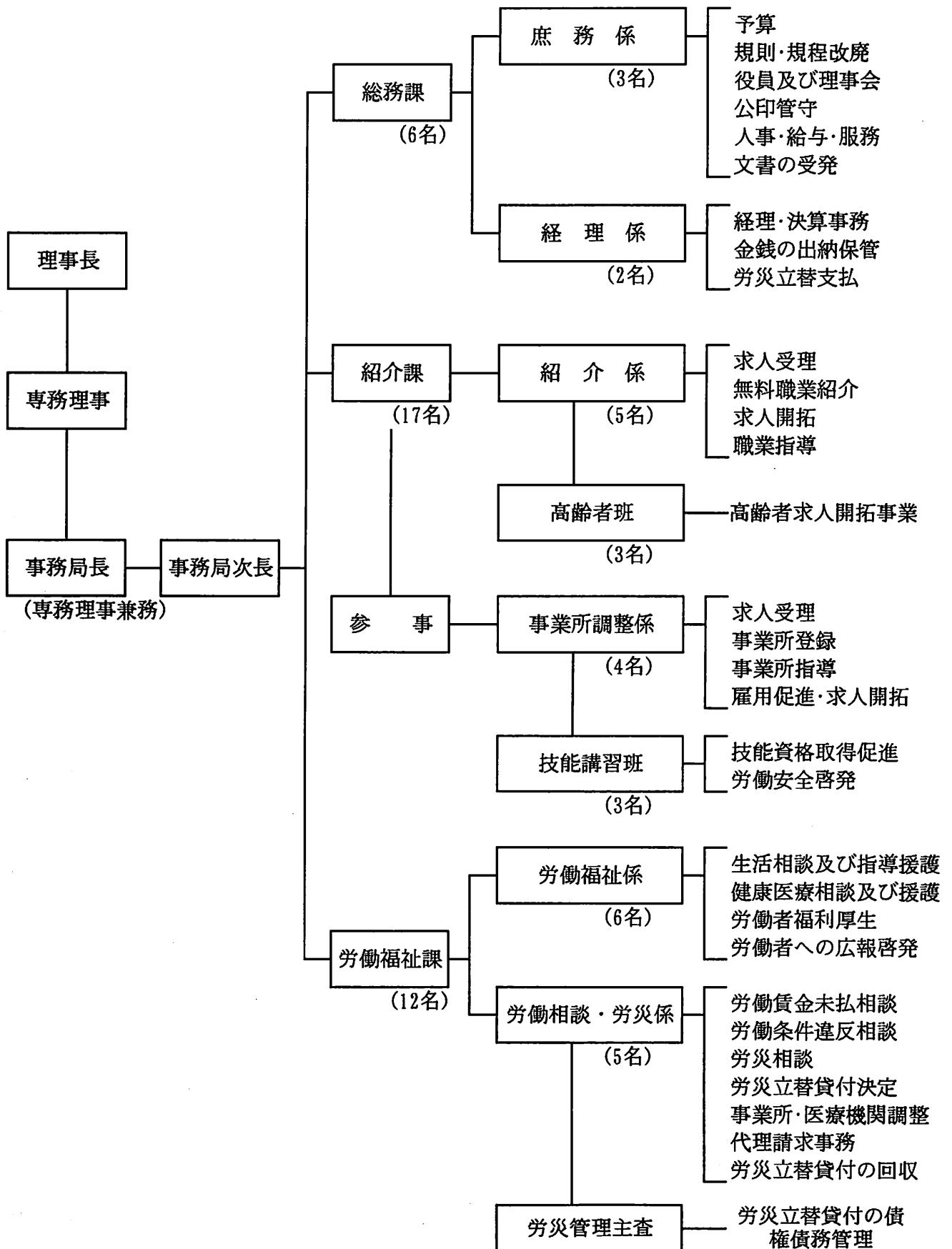
新しい年の雇用情勢はまだまだ不透明と云われていますが、少しでも改善されることを願って二十一世紀の初年を迎えましょう。

11月求人数		対前月増減比	対前年増減比
現金	75,092	- 5.4	+ 28.4
契約(延数)	58,178	- 0.4	+ 66.4
	センター窓口分 13,009	- 4.4	+ 77.0
高齢者清掃紹介人数		4,368人	

# 組 織 図

平成13年4月1日現在

(分 担 事 務)



現員合計 36名 (理事長、専務理事を除く)



# 沿 革

1961 (昭和 36) 年	8 月 1 日	釜ヶ崎事件
1961 (昭和 36) 年	9 月 1 日	大阪府労働部西成分室開設
1962 (昭和 37) 年	9 月 28 日	無料職業紹介事業許可 (労働省収職第 1420 号)
1962 (昭和 37) 年	10 月 1 日	財団法人西成労働福祉センター設立
1962 (昭和 37) 年	12 月 17 日	第 1 回事業主懇談会
1963 (昭和 38) 年	6 月 10 日	求職の登録制度開始
1964 (昭和 39) 年	9 月	日雇労働者健康保険加入手続き事務開始
1965 (昭和 40) 年	4 月	日雇労働者失業保険加入手続き事務開始
1966 (昭和 41) 年	4 月 1 日	労災立替貸付業務開始
1966 (昭和 41) 年	6 月	釜ヶ崎を「あいりん地区」と呼称
1970 (昭和 45) 年	10 月 1 日	あいりん総合センター開所 (事務所移転)
1970 (昭和 45) 年	12 月 30 日	求職の登録制度廃止
1972 (昭和 47) 年	8 月 1 日	大阪府労働部に特別対策室設置
1974 (昭和 49) 年	6 月 28 日	事務局組織改正 (3 部制を 4 課 6 係制に) 労働相談窓口専門化
1975 (昭和 50) 年	8 月	日雇労働者福利厚生措置、財団で取扱開始
1976 (昭和 51) 年	11 月 1 日	事業所登録制度始める
1977 (昭和 52) 年	11 月 28 日	第 1 回就労正常化促進週間実施
1978 (昭和 53) 年	1 月 30 日	「センターだより」創刊
1978 (昭和 53) 年	6 月 12 日	事務所内に玉出社会保険事務所窓口開設
1980 (昭和 55) 年		「労働者便利帳」発行
1981 (昭和 56) 年	3 月 5 日	「将棋愛好者の集い」を開催
1981 (昭和 56) 年	6 月	窓口紹介、集中公開方式始める
1981 (昭和 56) 年	9 月 3 日	第 1 回たそがれコンサート開催
1983 (昭和 58) 年	5 月 18 日	事務局組織改正 (4 課 8 係) 事業所係、労働相談係設置
1989 (平成元) 年		日雇 (現金) 求人数センター発足以来最高の年に
1991 (平成 3) 年	4 月 1 日	事務局組織改正 (3 課 6 係 2 班)
1993 (平成 5) 年		技能講習 (ガス溶接、アーク溶接) 開始
1994 (平成 6) 年	11 月	特別清掃事業実施 (大阪府・市)
1995 (平成 7) 年		技能講習 [車両系 (整地、解体)] 開始
1997 (平成 9) 年	4 月 1 日	事務局組織改正 (3 課 6 係 2 班) 紹介課高齢者班設置、労働福祉課労災係管理班廃止
2000 (平成 12) 年	4 月 1 日	あいりん地区日雇労働者厚生事業開始
2000 (平成 12) 年	4 月 13 日	事務局組織改正 (3 課 6 係 3 班) 労働福祉課労働安全班設置
2001 (平成 13) 年	4 月 1 日	事務局組織改正 (3 課 6 係 2 班) 紹介課事業所係技能講習班設置、労働福祉課労働相談・ 労災係設置、紹介課事業所係労働相談班廃止、労働福祉 課労災係及び労災係労働安全班廃止



守 ろ う 人 権

明 る い 社 会

経 験 豊 かな 労 働 力

高 齢 労 働 者 の 雇 用 は セ ン タ ー へ

財 団 法 人 西 成 労 働 福 祉 セ ン タ ー

〒557-0004 大 阪 市 西 成 区 萩 之 茶 屋 一 丁 目 3 番 4 4 号

求 人 : 06-6632-3200 技 能 講 習 : 06-6633-7998

労 働 福 祉 : 06-6641-0296 相 談 労 災 : 06-6634-6535

総 務 : 06-6641-0131 F A X : 06-6641-0297